

平成22年第4回大台町議会定例会会議録（第2号）

1. 招集の年月日

平成22年12月13日（月）

2. 招集の場所

大台町議会議場

3. 開 会

12月14日（火）

4. 応 招 議 員

1番	堀江洋子君	2番	廣田幸照君
3番	山本勝征君	4番	小林保男君
5番	大西慶治君	6番	直江修市君
7番	元坂正人君	8番	濱井初男君
9番	村田侑康君	10番	小野恵司君
11番	前田正勝君	12番	中西康雄君
13番	上岡國彦君	14番	伊藤勇三郎君

5. 不 応 招 議 員

なし

6. 出 席 議 員 数

14名

7. 欠 席 議 員

なし

8. 地方自治法第121条の規定により説明の為出席した者の職氏名

町長	尾上武義君	副町長	余谷道義君
教育長	村田文廣君	総務課長	上瀬勉史君
会計管理者	高西立八君	企画課長	東久生君
町民福祉課長	磯田諄二君	健康ほけん課長	大滝安浩君
税務課長	立井靖樹君	生活環境課長	鈴木好喜君
産業課長	野呂泰道君	建設課長	高松淳夫君
報徳病院事務長	尾上薫君	総合支所長	谷口俊彦君
大杉谷出張所長	寺添幸男君	監査委員	中井裕君

9. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	西山幸也君	同書記	北村安子君
--------	-------	-----	-------

10. 会議録署名議員の氏名

6番 直江修市君	7番 元坂正人君
----------	----------

11. 日程第1 一般質問

- 1 前田正勝議員
- 2 堀江洋子議員
- 3 直江修市議員
- 4 村田侑康議員

(午前9時00分 開会)

○議長（大西慶治君） おはようございます。

定刻となりました。ただいまから平成22年第4回大台町議会定例会を再開します。

ただちに本日の会議を開きます。本日の会議日程はお手元に配布してあります議事日程表のとおりです。

一般質問

○議長（大西慶治君） 日程第1 一般質問を行います。

通告の順に発言を許します。

11番 前田正勝 議員

○議長（大西慶治君） 通告順4番、前田正勝議員の一般質問を行いますので、前田正勝議員は質問席へ移動してください。

それでは通告順4番、前田正勝議員の発言を許可します。

前田正勝議員。

○11番（前田正勝君） 11番前田正勝でございます。

本日は町長及び教育長に2項目ほど伺いたいと思います。まず協和中学校の統合問題についてです。この問題については、それこそ長い年月が流れております。私の知る範囲では30年近くなると思っております。また大台町と宮川村の町村合併後、これも5年近く流れました。この間、行政サイドでは解決を目指して元教育長を含め努力されたことは、評価をするところではございますが、現在も明るい展望が開かれていないと私は感じております。協和中学校の校区の皆さんのさまざまな思いも理解するところではありますが、この統合問題については余りにも長い月日がかかっているところから、1日も早い円満な解決を望むものとして、今置かれている状況、また今後の方向性などがあれば伺いたいと思います。

○議長（大西慶治君） 尾上町長。

○町長（尾上武義君） それでは、前田議員の協和中学校の統合問題についてお答えをいたします。この町村合併後につきましても、地域への懇談会などを中心に話を進めさせてもらってきたところでございます。今までもその都度申し上げてきたわけではありますが、町といたしましては老朽化の進む校舎の問題や、少子化による生徒の減少などを考慮しながら、生徒によりよい教育環境のもとで勉学に励んでほしいと思っておりますので、統合を進める必要があるという考えで、話を進めてきたところでございます。

特に平成21年度4月の大紀町との組合立の解消を機会に、大台中との統合を行うこととして、この時期、積極的に保護者や地域住民の皆さんとの対話を進めてきたところでございます。しかし両校の統合につきましても、ご承知のとおり実現せ

ずに組合立は解消いたしましたものの、統合は先送りとなりました。協和中学校は町立の中学校として存続をいたしております。

現在の状況につきましては、これまでの経緯も踏まえながら、対話を進めつつ、地域の各区長さん方のご意見を賜り、そして資料を取りそろえてその意見交換の場をつくりながら進めているところでございます。町といたしましては、校舎の状態や町全体の生徒の推移などを見ますと、早い時期に解決を図っていく必要があるという、基本的姿勢に変更はなく、これまで同様に統合を推進する立場で進めてまいりたいと考えております。この件につきましては、教育長からも答弁をいたさせますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

○議長（大西慶治君） 村田教育長。

○教育長（村田文廣君） 協和中学校の問題でございすけれども、私も本年4月から教育長になり、今までの方針を引き継いだ形で進めてまいりました。昨年度から行われてまいりました日進地区の各区長さん方との意見交換会、この場を本年度も引き続き持っております。その中で教育的見地から見ました中学校教育のあり方を話させていただきました。中学校教育を考える中で生徒の人間関係等を考えると、複数の学級があるほうが望ましく、生徒が人間関係で悩んだ場合に対処しやすいこと。また複数の小学校から集まったほうが、新しい人間関係を築くことができること等について、話をさせていただいております。

これまでの区長さん方との意見交換会の中で、まとめてきた資料ができあがりつつありますので、今後はその資料をもとに小中学校の保護者の方、地域の方々への説明会を実施していきたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（大西慶治君） 前田議員。

○11番（前田正勝君） この問題については、町長も前教育長も同じような答弁をなされるわけですが、余りにも長い時間がかかるんで、本当に何が原因か、そこら辺も突き止めて進めていってほしいんですが、町の総合計画の今前期あと1年ぐらいなんです、基本計画の中にもる提言をもとにつくられた基本計画があるんで

すが、その中にもうたわれておるんです。この議論はどこまでいっても、まさに私と町長、教育長と同じように、地元の人らとも時間がかかって平行線ばかり辿っておるのやないかと、私はそう思っておるんです。こうちょっと虚しい思いもするんですが、今、教育長が申されたように区長さんとの話し合いの中で、まとめていくという話なんです、その今の段階でどんなような考え方があるのか、区長さんがどんなような考え方を持っておるのか、また保護者の皆さんがどのような考え方を持って、このことについて考えられておるのか。教育長まだ就任から短い時間ではございますが、教育長の立場から、どんなふうに感じておられるのか、そこら辺も踏まえて伺いたいと思います。

○議長（大西慶治君） 村田教育長。

○教育長（村田文廣君） 私もこの4月に就任しまして、まだそれこそ8カ月しかたっちはいないのですけれども、その間に、日進地区の区長さん方と何回か懇談会をさせていただきました。私も以前のことはそれほどつかんではおりませんので、新たな気持ち、新たな目で自分の立場から考えております。それでやっぱり先ほど前田議員おっしゃいましたけれども、30年と言われましたけれども、実質40年近くこの問題がずっと続いているのではないかと思います。後ろに資料を見せてもらっても、昭和40年代ぐらいから来ているようでございますので、その長い期間ずっとなかなかうまくいかなかったと。この合併いたしまして、統合のことを考えるということで、していただいたようですけれども、これもうまくいかなかったと。

ただやはり今の状況を考えておりますと、協和中学校の問題だけでなく、大台町全体の中学校から考えてきますと、本当に小さい学校が今後幾つもできてくると、そういう状況が今後起こってくるものが考えられます。その中でやはり子どもたち、特に中学生の成長段階を考えますと、私の経験からはやはりこの前も申させていただきましたけれども、複数の学級があるほうが、やはり子どもたちを豊かな、また人間関係を築く上でも大きな影響を与えるのではないかというふうに考えておりました、私もそのまま引き続いて統合を進めていきたいということで、たまたま今の段階ではどこという形は、何も話もさせていただいてはおりませんけれども、統合

が必要であるという考えであります。

保護者の方の考え、これまだ私自身、保護者の方と話もしておりませんので、どのような状況なのか、現状ですけれども、どのような状況なのかとはつかんでおりません。今後その保護者の方との資料を持ちまして、話し合いを進めていく中で、保護者の方の本当の気持ちというの、またつかんでいきたいと思ひますし、地域の中へ入って地域の方々がどのように、少しずつ変わってきているというお話も聞いておりますので、どのように変わってきているのかもつかんでいきたいと思ひております。

ただ今後を考えていきますと、平成24年、平成25年ごろになりますと、本当に小さな学校ばかりになってくるという状況もございますので、ゆくゆくはその決断していかなければならないだろうかということは考えてはおりますけれども、今の段階ではまだそういうふうな形で、この前も申させていただきましたように、地域の方々とコンセンサスを得ながらということで、まずはとにかく入っていきたくと思ひております。以上でございます。

○議長（大西慶治君） 前田議員。

○11番（前田正勝君） 教育長のお話の中にもゆくゆくはという話で、下手すればそれこそ既に国のほうではされておるようですが、道州制でこの問題はこの町では解決できなくて、道州制度が入ってくるような感じを、私は持つておるんですが、その中でこの町が手をつけることなく、うえというとおかしいんですが、そういう格好になるんじゃないかと、私は思つておるんですが、やっぱりあの校舎を見ると、歴史的にはあの建物はすごいものがあると思ひますが、やっぱり子どもたちのもしというとなんなんですが、もしものことがあつたら、どないになるのかな、誰が責任持つて、これはあつてはならないことですが、その点も考へて、できるだけ教育長になつたばかりで申しわけないんですが、しっかり汗をかいて、それこそ汗かいて頑張つていただきたい。それでなるべく足を運んでいただいて、地元へ校区へ、いろいろな人の声を聞いて、それこそ円満に解決の道をさぐつていただきたいと、それが先ほども申されたように、全町的なことであつて、この町の一体感も生まれ

てくるんだと思います。

このまま行くとここ自治体の大台町の一体感が私は、前日も町長に申し上げたんですが、一体感がなかなか生まれてこない。栃原地区から選出された議員さんもおいでるんですが、なかなか何事につけてもうまくいかない。そこら辺も考えて、これも町長に伺いたいんですが、まず教育長からその点を伺いたいと思います。

○議長（大西慶治君） 村田教育長。

○教育長（村田文廣君） 校舎の問題等もございますし、やはり子どもたち、その以前にやっぱり子どもたちの人間関係等を考えると、やはり大きなところになったほうがいいんじゃないかと考えております。校舎のことを本当に誰が責任を持つんやと言われると、私どもがそれを考えていかなければならんということになると思いますので、すいません。意見交換会を懇談会と言いまして、意見交換会なんですけれども、申しわけございません。

それから一応とりあえず耐震工事をしておりますので、それで何年かは大丈夫だという話もいただいておりますので、それはそれといたしまして、とにかく今後地域の方と十分話を持ちながら、ゆくゆくそういう形になってくるかとは思いますが、進めてまいりたいと思っております。前田議員のおっしゃられるように、早くというのもよくわかるんですけれども、今まで40年間過ごしてきた部分も、歴史もございますので、その辺りも勘案しながらとにかくしっかりと一生懸命地域へ入って取り組んではいきたいと思っております。

○議長（大西慶治君） 尾上町長。

○町長（尾上武義君） 前田議員がご懸念されております道州制の問題は、これはまだまだしっかりと話が出てきているわけではございません。ただチラチラとはあるわけでございまして、そのご懸念もわからんことはないんですが、先の全国町村会でも強制合併につながる道州制の導入は、断固反対という形で、意思表示もさせていただいておるようなことでもございますが、そういうようなことでもございますので、道州制とこれとはちょっと切り離してもいいんじゃないかなというふうに思います。

そういうことの中で、この一体感というようなことで、これ醸成していかないかん。これは当然合併もあったことから、旧宮川村、大台町というふうな形の中で、もう一つこの一体感を盛り上げていかないかんということで、そういうことで努力はしているわけですので、これはある程度、時間も必要かなというふうに思いますけれども、徐々にそういうものを作り上げていく必要があろうかと思えます。そういうことで中学校の統合につきましても、依然として基本的な姿勢は変わっていないということで、拙速に進めてもこれはいかんと、物の進め方がございますので、私も合併当初から地域に出させていただいて、何回か地域の方々ともお話もさせていただきました。ただそれが私の反省点としては、やや拙速すぎたかなというような部分もございます。そういうようなことで、やはり地域の人とじっくりと将来的な話もしながら、そういう中でやっていく必要もあるのかなということも思っております。

そういう意味で、リセットするわけではございませんが、教育委員会のほうでしっかりと資料もとりそろえつつ、地域の方々と話をする中で、こうやったら仕方がないというようなところまで、やっぱりご理解いただく中で、物事を進めていく必要があるだろうというふうに思っております。そういうふうなことですので、よろしくお願ひしたいと思えます。

○議長（大西慶治君） 前田議員。

○11番（前田正勝君） 次に、大台町の将来像について伺うわけなんですが、今、国は新しい政権のもと、今までとは違った考え方で、さまざまところで施策を打ってきていると感じております。国の財政難を視野に入れ、地方分権の名のもとに、施策をこの地方の自治体にさまざまな形で押しつけようとしている、そんなふう伺えるんですが、こんなような現状を見る時、この町の1次産業、社会福祉、教育、少子高齢化を踏まえた地域の活性化など、さまざま伺いたいんですが、その一部でもよろしいんですが、これも全く先の見えない状況なんです。この中山間地に位置する大台町の将来像を、町長はどのように描かれているのか、伺いたいと思えます。

○議長（大西慶治君） 尾上町長。

○町長（尾上武義君） それでは大台町の将来像についてお答えいたします。大台町の主産業であります農林業は社会構造の変化や、過疎と高齢化によりまして大変厳しい状況に陥っているところであります。また若者の都市への流失による少子高齢化によりまして、地域の活力が減退をしてきておりまして、高齢者の福祉や子育ての充実、公共施設の整備などさまざまな課題に直面をいたしているところであります。

町財政におきましても、過疎法がようやく平成27年度まで延長されましたことから、何とかまちづくりの計画や道筋が立てられておりますが、期限後や今後の国の状況を考えますと、大変厳しい事態も視野に入れておかねばならないと考えているところであります。そうした状況の中で、私のまちづくりの基本理念を、住んで良かった、ずっと住み続けたいと、誰もが思える町を目指しまして、将来の町の姿を自然と人々が幸せに暮らす町としまして、町民一人一人の幸せを尊重したまちづくりを目標としているところであります。

そうした将来像を掲げ、次のような五つの基本目標を立て、厳しい状況下であります。町民の皆様と力を合わせて取り組んでまいりたいと考えております。まず一つ目が総合計画にもございますように、美しい環境のまちづくりということで、全国に誇れる大台町の自然環境を守っていくために、森林の持つ公益的機能を高め、あるいは生活用水、生活排水やゴミ、道路などの生活環境の整備を進めていかねばならないと考えております。

二つ目が産業振興と交流のまちづくりであります。多様で豊かな自然などの地域資源や高速道路の整備による利便性の向上等をいかしまして、農林漁業、商工業、観光など地域産業の振興と集客、交流のまちづくりを進めていかねばならないと考えております。

三つ目がいきいき健康福祉のまちづくりであります。すべての町民の皆様がともに支えあい、安心して生活できる健康福祉のまちづくりを進めていかねばならないと考えております。

四つ目が、教育、文化振興のまちづくりであります。毎日元気に通学し学び、地

域でのびのびと遊べる町、誰でもいつでもどこでも趣味や教養やスポーツなどを楽しむことができるまちづくりを進めたいと考えております。

五つ目が、安全安心のまちづくりであります。町民の皆様と行政が一体となって防災体制を築くとともに、防犯対策や交通安全運動、地域公共交通の確保などを図り、誰もが安全で安心して暮らしていけるまちづくりを進めたいと考えているところでもあります。

しかしながら、この五つの目標も町民の皆様のご理解とご協力なしでは進められませんことから、私は大台町を文化や歴史、風土などが多少異なる地域の特性やニーズをいかしたコミュニティーを構築していくこと考えから、今年度より支所、出張所の機能を強化し、町民の皆様と行政が協働して目標実現のために取り組んでいきたいと考えております。

またこれからの地方分権に対応できるように、職員を対象に本年度、政策形成能力を高める研修も実施するなど、実現に向けて対応しているところでございます。なお前田議員も懸念されております国政の動きでございますが、2004年の国と地方の税財政改革いわゆる三位一体改革に伴いまして、地方交付税が大幅に削減をされ、地方自治体の財政基盤を大きく揺るがしてきております。また民主党政権は地方自治法の自主性を強化し、自由度の拡大を図るため、義務づけ枠づけの見直し、基礎自治体への権限委譲、国直轄事業負担金の廃止、そして紐つき補助金の一括交付金化、出先機関の原則廃止、道州制など地域主権改革を強力に推進しようとしております。

そうした中、後期高齢者医療制度の廃止など医療保険改革に伴う国民健康保険の広域化にかかる個人負担の増加懸念や子ども手当の創設にかかる地方負担への転嫁の懸念、子ども子育て新システムによる利用者負担の増加懸念、食糧自給率向上や農業農村の振興を図るための戸別所得補償制度の小規模農家への期待はずれと、TPP環太平洋経済連携協定でございますが、このTPPという関税ゼロを目指す自由貿易協定の動きなど、地方自治体に幾重にもなって大きな課題がおおいかぶさっております。

そうした厳しい風が吹く中で、平成22年12月1日開催の全国町村長大会で地方の深刻な状況を政府に訴えるため、次のような決議や重点意見をアピールしたところでございます。

一つ目に実行ある経済、雇用対策を強力に推進すること。

二つ目には真の地域主権改革を推進すること。

三つ目には市町村の強制合併につながるような道州制は導入しないこと。

また四つ目には、三位一体改革で大幅に減額された地方交付税を復元、増額すること。

五つ目には、一括交付金は地方の自主性を高め財政力の弱い自治体に配慮した制度設計とすること。

六つ目には、地球温暖化対策の地方税として、全国森林環境税を創設すること。

七つ目には、国民健康保険は広域化し、制度運営の責任は都道府県が担うこと。

八つ目には、子ども手当にかかる経費は全額国庫負担とすること。

九つ目には、EPA、FTA等の国際貿易交渉にあたっては農林漁業を犠牲にすることがないように、粘り強く交渉を進めるとともに、例外なき関税撤廃のTPPについては農林漁業、農山漁村のみならず地域経済、社会そのものが崩壊につながるため参加をしないこと。

そして10番目には、農林水産基盤整備予算の大幅な削減は食糧、木材自給率に対する信任を大きく低下させているため従前の予算規模に復元すること。また特別決議として、我々は政府に対しTPPについて反対を明確にする。今政府のやるべきことは、昨年来のマニフェストで掲げた農林漁業と農山漁村の再生を責任を持って実現することであるとの決議も行うなど、全国町村会をあげて政府に地方の窮状を訴えておりまして、今後も全国の首長が団結し政府を動かしていかなければならないと考えておりますので、ご理解とご支援をお願いし、答弁とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（大西慶治君） 前田議員。

○11番（前田正勝君） 決意のほうしっかり実現できるように頑張ってください

たいと思いますが、今それこそ人々の考えが多様化しております。高齢化が進み社会問題として、家族の崩壊があり、前回の定例会でも話があったんですが、無縁社会などが大きな問題として取り上げられております。全くこれも先の見えない状況だと、私も思っておりますが、これから先どうなっていくんだと言われる人が、最近特に多く見受けられます。

私も若い時は、このことについては余り感じなかったんですが、最近自分も年がいったんか、思いが強くなってきました。やっぱり人間の幸せは心身ともにすべて最後まで、安心して生きていける社会であることが大事かなと、そんなふうに思われます。以上のようなことを考えると、先ほども町長は総合計画のるる各施策とか基本構想とか、そういうことをおっしゃったんですが、身近なことで老後の医療、介護は大丈夫なんかと。家族の絆は強く結ばれることができるのか。安心して子育てができるか。そのように課題があるんですが、これについてさまざまな取り組みがされることと思われるんですが、先ほど町長が申されたやつは、来年度の予算にも反映してくることだろうと思っておりますが、そのようなことも踏まえて町長が考えておられる、具体的なことがあれば伺いたいと思うんです。

○議長（大西慶治君） 尾上町長。

○町長（尾上武義君） この大台町も現在のその病院問題があったりとか、そして水道の関係は手をつけさせていただきました。そしてまたRDFの問題も横たわっております。そういうようなことで、獣害もあったりとか、集落対策があったりとか、お医者さんも確保していかなあかんとか、いろいろなその問題が多岐にわたって存在をしているところであります。

そういう中でやはり総合計画の目標とするところへ向かって、職員もそしてまた地域の皆さんも取り組んでほしいなというふうに思っているところでもございまして、そのように努力はしているところでございます。おっしゃられるように、家族の絆が薄れてきたとか、あるいは隣、近所のことについては我関せずというような形になってきて、そういうことで無縁社会というふうなことでの報道もございました。いろいろな形でマスコミに取り上げられるケースが多くなってきております。

そういうことで、この耳目に入ってくるケースが多くなってきまして、そういったようなことが本当に大きな懸念材料というふうな形になって、膨れ上がってきている部分も多分にあるのではないかと考えております。

ただ私は、この大台町ではそういうことではなくって、やはり隣、近所、そしてまた知り合いの皆さんの絆、そういったようなものはまだまだ強い地域であるなどという自負は持っております、そういう昔からつながっているというか、地縁・血縁といったものが非常にまだまだ強いところであるなどというふうに思っているところでもあります。そういう中で、やはり子育てをしっかりとやっていかないかんとというようなことで、およそ家族も含め地域の皆さんもそのような目を見ていただいているのではないかなと、こう考えております。

町も子どもの支援センター、この整備をさせていただく中で、しっかりとやっていただいております。お母さん方も小さなお子さんを連れて、いろいろ交流をされているようでもありますし、心のつながりといったものが、かなり出てきているようでもございます。そういった子どもを介してのつながりも、親同士でもできておるとか、あるいは学童保育整備をさせていただいたりとか、あるいは保育所の整備をさせていただいたりとかいうようなことで、保育料も安いとか子どもを育てられる環境としては、非常に申し分のない、そういう状況になりつつあるのかなというふうに思っております。

今後さらに充実、前進させていかねばならないわけなんです、総合的に安心できるような社会をつくっていかないかんと。お陰と防犯協会の皆さんとか、交通安全協会の皆さんとかいろいろな形で、日々動いていただく方もみえますし、子どもを見守る地域の皆さんもおってございます。そういうようなことで、絆そのものは非常に強いところであるなどということでは思っているところでございますが、今後もその安心して過ごせる、そういう社会を構築していくために努力はしていかないかなと思っているところでございます。いろいろ大きな問題点もあれば、小さい問題点もいろいろあるわけなんです、ひとつ一つ解決に向けてやっていかないかな。ただ言ったからすぐにできるということもあれば、中長期に構えなければあ

かん部分もございますので、何しとるんやというようなこともあるかも知れませんが、徐々にそれは努力をしていかなければならんと、こういう思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（大西慶治君） 前田議員。

○11番（前田正勝君） どれもしっかり頑張ってもらいたいと思っておりますが、もう一つ平成22年も後わずかなんですが、町長に新しい年に向けて頑張ってもらいたいたことが、私なりに一つあるんですが、これからの時代、情報収集能力がますます必要になってくるのではないかと思います。これはなぜかと言うと、先だってそれこそ朝鮮半島問題で、日米間の合同訓練演習があったんですね。その時に、アメリカの原子力空母の中枢の映像を見て、さすがやなと思ったんです。それは金もすごくかかっているんだと思うんですが、やっぱりこれから先に情報を取ったほうが、すべてのことにいいのではないかと。かちという言葉は私は使いたくないんです。いいんじゃないかと、そう思っております。

うちの町も企画課の努力でいろいろと頑張ってもらえるということは、私もよく知るころなんですが、さらに職員の皆さん一人一人がさまざまな置かれている立場があるんだろうと思ひます。ここに執行側がもらえるんですが、課長ではなくて、皆さんそれぞれ課には職員さんがもらえると思うんです。そこら辺、情報収集する能力、これは先ほども町長、職員の研修とか何か言われたんですが、そういう場を使って、恐らくこれはプロがおるんだろうと思ひます。そういうことも少しは金をかけて、そういう情報収集ノウハウをつかんでやっていただきたいと思うんです。

それこそ昨日も同僚議員のほうからあったんですが、片方は町はお金を稼がないかんのやという話と、もう一人の方は国が数字をあやっって操って、知らんうちに負担をかけてくると、そんなところが私は見受けられるんです。その数字をいろいろほうは。そういうことをたどっていくと、なんじゃこれはという話になるんですわ。それらも研究してもらひたい、そういう能力をつけてほしいんです。これからも国は財政難から、自治体もこれから恐らく振り回してくると、その対応にはすごい力が要るだろうと思うんですが、その点も踏まえて町長にお願ひをしたんですが、

お願いをするというのはいかんですけれども、頑張っていたきたいと思うんですが、それを伺って質問を終わりたいと思います。

○議長（大西慶治君） 尾上町長。

○町長（尾上武義君） 確かに情報収集しながら対応を図っていくということは、非常に大事なことでございます。そういうことで、今年から政策形成能力を向上していこうということで、この17日でしたか、1日かけてそれぞれ8つほどの課題に向けて、これまで討議されてきたことのヒアリングをさせていただくんですが、全職員関わりながら対応させていただいておると、こういうようなことでございます。

そういったようなことを、繰り返しやっていく中で、能力というのは少しずつ上がってくる、これなかなか目には見えないことだとは思いますが、それぞれ職員は努力をしてくれておると、こういうことでもございます。それ以外にも、どんどん先進地にも行ってこいというようなことで、先だっても新潟県の見附市へ行ったり、あちらこちら下條村へ行ったり、泰阜村へ行ったりあちらこちら走り回っているところです。そういうようなことで、ずばりそのまま持ってきて、それをここで使うということではなしに、やっぱり大台町に合ったような形に加工しながら、地域の先進地の良さを学んでいくという、そういうスタイルでずっとやられていただいているところでございます。

そしてまた国や県の動き、そういったようなことは、私もしっかりと動きながら情報も取ってこないかんところはあるわけなんですけど、そういうようなことも含めながら役職員頑張っってやっていかないかんなということを思っているところであります。今の制度改正なんかある時は、非常にこの地方負担というのが当然引っついてくるケースが多々あるわけですし、そういったようなことについてもいち早い情報収集をやっていかないかんなということを思っております。本当に制度改正があると、地方負担というのがかなり出てくるような状況もありますので、ただそれにはそれで声も挙げていかなければならない時はあろうかと思いますが、しっかりやっていきたいというふうに思っております。

一つひとつこちらが努力をしながらやっておっても、それこそ国の制度改正でミルクで育てて癒瘍でばったりというような、そういうケースになりかねないということもありますので、十分それに気をつけながらやっていかないと、こう思っているところであります。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（大西慶治君） 前田正勝議員の一般質問が終了しました。

○議長（大西慶治君） しばらく休憩します。

再開は9時55分とします。

（午前9時42分 休憩）

（午前9時55分 再開）

○議長（大西慶治君） 休憩前に引き続き会議を開きます。
